

II 国分寺跡などの整備事例

個別国分寺跡状況調査表

史跡名称	伊賀国分寺跡
所在地	三重県伊賀市西明寺長者屋敷
国史跡指定年月	大正12年3月7日 追加指定 昭和36年2月7日
指定地面積	61,066.03㎡
遺跡の概要	東西220m、南北240mの規模をもつ国分寺跡で、土塁が四方を取り囲んだ状態で残るなど寺域の保存状態は良い。中心伽藍である中門・金堂・講堂が一直線に並び、中門と金堂とは回廊で結ばれている。東回廊の東方には塔跡（推定）が、講堂の背後には僧房と考えられる付属建物も確認されている。この国分寺跡の東数百メートルの所に、国分尼寺跡と推定される長楽山廃寺跡も存在するとされる。
整備期間	
整備総事業費	
整備事業の概要 (ガイダンス施設などの設置状況)	南門付近に当たる国分寺跡入口付近は説明看板があり、遊歩道や植栽もなされ整備されている。寺域内部に入ると、松が所々に生える広大な広場がひろがり、遊歩道がある。中門跡や金堂跡・講堂跡には「跡」を示す説明板がある。駐車場やトイレは、国分寺跡とは道路をはさんだ少し離れた場所に設けられている。
現況写真	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>国分寺跡入口</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>国分寺跡の説明</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>南側土塁</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>伽藍内部</p> </div> </div>
備考	

個別国分寺跡状況調査表

史跡名称	伊勢国分寺跡	
所在地	三重県鈴鹿市国分町堂跡	
国史跡指定年月	大正11年10月12日	
指定地面積	37,180.00m ²	
遺跡の概要	<p>鈴鹿市教育委員会によって昭和63年から確認調査が実施され、その成果をもとに平成7年から3年間かけて史跡用地の公有化、平成11年～17年にかけては伽藍等の確認調査が行われ、おおよその伽藍配置が明らかとなっている。</p> <p>伽藍は四方を築地塀で囲まれた約180m四方の大きさである。伽藍のやや西側に南門があり、そこから北に向けて一直線状に中門・金堂・講堂・僧房・北門が並ぶ。中門と金堂とは回廊で結ばれている。国分僧寺に定められている七重の塔の跡はこれまでの伽藍内の調査では確認されていない。</p> <p>また、伽藍北東には築地塀に囲まれた北東院と呼ぶ施設があり、礎石瓦葺の門や東西7間（約13m）、南北2間（約4m）の大形二面廂の掘立柱建物が確認されている。</p>	
整備期間	平成20年度～29年度	
整備総事業費	411,876,000円	
整備事業の概要 (ガイダンス施設などの設置状況)	史跡整備中である。ガイダンス施設として鈴鹿考古博物館が隣接している。	
現況写真	 <p>整備のために集められた国分寺跡の石碑</p>	 <p>伽藍遠景</p>
備考		

個別国分寺跡状況調査表

史跡名称	三河国分寺跡
所在地	愛知県豊川市八幡町本郷
国史跡指定年月	大正11年19月12日
指定地面積	40,602.08㎡
遺跡の概要	調査は昭和60年から本格的に始まり、これまでの調査により180m四方の寺域をもち、周囲を築地塀で囲まれていたことが明らかとなっている。伽藍配置は南大門・中門・金堂・講堂が南北方向に一直線に並び、中門と金堂をつなぐ回廊があったことが確認されている。塔は回廊の外側西方に置かれていた可能性が高い。塔推定地である森の中には塔礎石が残る。
整備期間	現在史跡指定地を買収中である。
整備総事業費	
整備事業の概要 (ガイダンス施設などの設置状況)	現在史跡指定地を買収中である。ここから北東約400mに位置する三河国分尼寺と一体化した整備を進めており、ガイダンス施設としては三河国分尼寺史跡公園の正面にある「三河天平の里資料館」が活用できる。
現況写真	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>塔跡（石碑の後）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>伽藍内部の案内看板</p> </div> </div>
備考	

個別国分寺跡状況調査表

史跡名称	三河国分尼寺跡
所在地	愛知県豊川市八幡町
国史跡指定年月	大正11年10月12日 追加指定 昭和47年4月22日
指定地面積	21,901.56㎡
遺跡の概要	三河国分寺の北東約400mに位置する。三河国分寺と同じ台地の東北端にあり、景観もよく、水害もない立地にある。寺域は500尺（約150m）四方で、現在確認されている国分尼寺の中では最大級の規模である。伽藍配置は南大門・中門・金堂・講堂が一直線に配置され、中門から左右にのびた複式回廊が金堂を内側に配置し講堂へとつながっている。建物では金堂の規模が間口120尺（約36m）、奥行き70尺（約21m）、間口柱間87尺（約26m）であり、全国で調査された国分尼寺の中では最大のものである。また、南大門から左右にのびた土塁が寺域を正方形に区切っている。
整備期間	平成2年 豊川市教育委員会が保存のための確認調査 平成8年～11年 豊川市教育委員会による史跡整備に伴う発掘調査 平成12年～17年 保存整備事業 平成17年 史跡公園完成
整備総事業費	651,470,000円
整備事業の概要 (ガイダンス施設などの設置状況)	発掘調査の結果を踏まえ、国分尼寺の伽藍中心部にあった清光寺を史跡指定地外の西側に移転するという大事業を行っている。 伽藍の復元では、当時の姿が実感できるようにと、中門と複式回廊の一部を遺構の真上に実物大建物として復元している。復元建物は現存の奈良・平安時代の建物を参考に復元設計をし、国産のヒノキを用い、ヤリガンナで仕上げ、柱などには朱塗りを施すなど、できるだけ当時の姿に近い復元がなされている。金堂・講堂などの建物は基壇が復元され、土塁や溝も発掘調査成果に基づいて整備されている。 ガイダンス施設として、尼寺跡の道を挟んだ南側に「三河天平の里資料館」があり、国分寺跡や国分尼寺跡の調査で明らかとなった成果品や出土品が展示されている。ここには小講座室もあり、映像機器を使った説明や団体説明にも対応できるようになっている。館内にはボランティアガイドが常駐しており、館内だけでなく国分尼寺跡の説明を行っている。入館無料で、トイレ・大駐車場も完備されている。
現況写真	 <p>復元された中門と回廊の一部</p>  <p>回廊</p>  <p>整備された回廊基壇上部</p>  <p>回廊内部</p>  <p>講堂跡から北門を望む</p>  <p>駐車場と三河天平の里資料館</p>
備考	

個別国分寺跡状況調査表

史跡名称	上総国分尼寺跡
所在地	千葉県市原市国分寺台中央3丁目5番地
国史跡指定年月	昭和58年8月30日 追加指定 昭和61年1月23日
指定地面積	38,120.31㎡
遺跡の概要	<p>上総国分尼寺は、房総半島の中央部を占める古代上総国の西端、国府が置かれた市原郡に建立された。JR内房線五井駅の東南東約3kmの東京湾を望む養老川右岸の洪積台地上にあり、国分僧寺跡の北東数百mに位置している。現在はその間に市原市役所が建つなど、当時の地形や景観は失われている。昭和23年以降断続的に行われた発掘調査によって、国分尼寺としては全国最大(東西285m、南北372m)の寺域と良く整った伽藍(中門・金堂・講堂・尼房を南北に配置)を有し、付属施設を含めた古代寺院の全貌が初めて明らかとなった国分尼寺として知られている。</p>
整備期間	平成2年度～8年度
整備総事業費	ふるさと歴史広場事業、地域中核史跡等整備特別事業 1,850,000,000円(平成2年度～8年度)
整備事業の概要 (ガイダンス施設などの設置状況)	<p>市原市では、昭和58年度から指定地の公有化を進め、平成2年度に基本整備計画を策定し、整備事業に着手した。平成2年度に国分寺が建立された時代背景や史跡の内容・特徴を分かりやすく解説するガイダンス施設(展示館:RC平屋造り325㎡)を建設、平成3～4年度に中門、平成5～8年度には回廊と金堂基壇の復元を行い、市民に公開している。当初計画では引き続き鐘楼復元と講堂・尼坊等の平面表示を行う計画であった。入館無料で、トイレ・駐車場も完備されている。</p>
現況写真	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>復元された中門</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>復元された中門と回廊</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>復元された金堂基壇と灯籠</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>展示室内の国分尼寺模型と野外風景</p> </div> </div>
備考	

個別国分寺跡状況調査表

史跡名称	下野国分寺跡	
所在地	栃木県下野市国分寺	
国史跡指定年月	大正10年3月3日 追加指定 平成17年3月2日	
指定地面積	62,406.00㎡	
遺跡の概要	<p>栃木県の南部、下野市の市役所から西へ4km程行った思川の東岸にある。近くには大型古墳が多く、古代から栄えた場所にある。寺域の規模は東西413m、南北457mと広大で、その中に堀で囲まれた東西231m、南北252mの伽藍が造られている。伽藍配置は南大門・中門・金堂・講堂が南北に一直線で並び、中門と金堂は回廊で結ばれ、塔が回廊の東側南方に、また、金堂と講堂を挟んで東西に鐘楼・経蔵が配置されている。</p>	
整備期間		
整備総事業費		
整備事業の概要 (ガイダンス施設などの設置状況)	<p>整備方法としては建物などは復元せず、調査によって明らかとなった金堂・講堂・回廊などの伽藍中心部の基壇を、地元産大谷石の切石を使って復元している。基壇上の礎石は四角形の大谷石を使い表現し、上面はコンクリートのようなもので覆われている。将来の管理を考えての整備方法であり、鐘楼・塔付近は未整備で緑が多く、落ち着く雰囲気場となっている。</p> <p>ガイダンス施設としては尼寺との間に「しもつけ風土記の丘資料館」があり、国府跡や国分寺跡・尼寺跡の調査成果が展示されている。また、道を挟んで「天平の丘公園」や栃木県埋蔵文化財センターもある。周辺には広大な駐車場が完備されている。</p>	
現況写真	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>南大門に広がる朱色の広場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>整備された金堂（手前）と回廊</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>整備された金堂</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>整備された講堂</p> </div> </div>	
備考		


個別国分寺跡状況調査表

史跡名称	能登国分寺跡附建物群
所在地	石川県七尾市国分町り部9番地
国史跡指定年月	昭和49年12月23日
指定地面積	46,238.00㎡
遺跡の概要	七尾湾に面する七尾市の海岸から約2.5km南に入った水田地帯にある。この国分寺は、承和10年（843）に能登国郡内の大興寺を格上げして国分寺としたことが『続日本後紀』にみられる。 発掘調査は大正年間の上田三平氏（文部省嘱託）による塔跡の調査、昭和40年代前半の七尾市の試掘調査などを経て、昭和45年から3年間にわたり奈良国立文化財研究所などの指導のもと、本格的な発掘調査が行われ、法起寺式伽藍配置であることやほぼ2町（一辺約218m）四方を占める寺域、その南に官衙的性格をもつ倉庫群が明らかとなり、昭和49年に国史跡に指定された。
整備期間	昭和45年度～昭和63年度 発掘調査（第1～7次）、昭和45・49年度 用地購入、平成元年度～平成4年度 史跡整備
整備総事業費	1 発掘調査費（第1～7次）25,000,000円 2 用地購入費（市単独事業・史跡等購入費）329,679,000円 3 史跡整備費 (1) 史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）488,710,000円 (2) 電源立地促進対策交付金事業（環境整備工事費）139,153,000円 (3) 市単独事業（環境整備工事費・展示費他）135,781,000円 合計1,118,323,000円
整備事業の概要 （ガイダンス施設などの設置状況）	七尾市では昭和58年に「史跡能登国分寺跡附建物群環境整備基本構想」を策定、平成元年には「史跡能登国分寺跡附建物群環境整備基本計画」及び「史跡能登国分寺跡南門・堀復元設計書」を作成し、同年より史跡等特別活用事業「ふるさと歴史の広場」整備事業に着手し、平成4年度に整備事業を終え、同年10月に「能登国分寺公園」とガイダンス施設「能登国分寺館」をオープンしている。 能登国分寺跡の整備については、七尾市が指定地周辺に広く土地を確保し、将来の史跡公園化に備えていたため、史跡隣接地に広大な駐車場が確保でき、史跡中央を貫通していた道路の付け替えもするなど、史跡整備計画としては理想的に仕上がった例といわれている。 また、この能登国分寺跡の整備事業にあたっては、奈良国立文化財研究所が全面的に協力し、「建物復元」「基壇復元」「盛土張芝」「植栽」の整備手法で、国分寺跡を整備した事例としても有名である。なかでも検出された建物遺構の直上に復元建物を建てる「建物復元」の整備手法が国分寺跡の整備で初めて行われ、その後の国分寺跡の整備では一般的な手法として行われるようになった。
	 <p>南より南門と堀を望む</p>  <p>南門前木橋と堀</p>  <p>塔基壇</p>  <p>南門から中門を望む</p>
備考	能登国分寺跡で行われた史跡全面を盛土をして遺構を保存し、遺構直上に建物や基壇を復元する整備手法は、その後の国分寺跡整備の見本となったものであり、能登国分寺と良く似た立地にある尾張国分寺跡の整備計画を進めていくうえで、参考になるものである。




個別国分寺跡状況調査表

史跡名称	伯耆国府跡 国府跡・法華寺畑遺跡・不入岡遺跡
所在地	鳥取県倉吉市国府・国分寺・不入岡
国史跡指定年月	昭和60年5月 追加指定 平成10年9月 追加指定 平成12年9月
指定地面積	174,417.46㎡
遺跡の概要	市街地から北西に約4km離れた低丘陵に位置する奈良時代から平安時代の遺跡。古代伯耆国の政治の中心であった国庁跡、それに関連する官衙跡と推定される法華寺畑遺跡、不入岡遺跡からなる。国分尼寺跡と推定されるのが法華寺畑遺跡で、この遺跡は、溝と柵列（塀）によって一辺150m四方に区画され、当初は国庁に関連する官衙として作られ、後に尼寺に転用されたと考えられている。近接して伯耆国分寺跡がある。
整備期間	平成7年度～13年度
整備総事業費	ふるさと歴史の広場事業、史跡等保存整備費（一般） 1,864,000,000円（土地買収費（実績）1,017,000,000円）
整備事業の概要 （ガイダンス施設などの設置状況）	平成元年度～平成2年度にかけて整備基本計画を策定し、近接する国分寺と一体化した空間構成となるように、8世紀末から9世紀代の遺構を基準に整備している。法華寺畑遺跡（国分尼寺跡）は、歴史的建造物の復元として、西の門跡に四脚門を実物大（推定）に復元し、周囲を囲む柵列（塀）跡や三つの門跡を原寸大の柱で表示し、その外側にある溝跡や柵列内部の建物跡を平面表示している。また、南門跡の南側一帯も指定（追加）されており、南門に続く道路状遺構が修景整備されている。近接する場所にはガイダンス施設はないが、野外にアルミ鋳物製の100分の1の遺跡全体模型、トイレの壁にマップや説明文を設置している。遺物は倉吉博物館で収蔵展示している。
現況写真	<div style="text-align: center;">  <p>復元された法華寺跡西門と板塀</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>整備された四脚門</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>整備された木塀</p> </div> </div>
備考	

個別国分寺跡状況調査表

史跡名称	播磨国分寺跡	
所在地	兵庫県姫路市御国野町国分寺谷	
国史跡指定年月	大正15年7月22日 追加指定 昭和60年12月12日	
指定地面積	45,539.82㎡	
遺跡の概要	<p>昭和43年以後の発掘調査によって、2町（一辺約218m）四方からなる寺域の中に、南から南大門・中門・金堂・講堂が南北方向に一直線に並び、中門と金堂をつなぐ回廊があり、その外側東南部に塔が置かれた伽藍配置であることが明らかとなった。この他に、金堂前には燈籠の基壇、寺域の境には築地や溝の跡も確認されている。塔跡には心礎を中心に17個の礎石群が現存している。</p> <p>なお、国分寺跡の伽藍北側半分には、現国分寺があり、国分寺跡の金堂は現国分寺薬医門の位置に、講堂は現国分寺の本堂の位置にあったことが確認されていて、全容を発掘することは困難な状況にある。</p>	
整備期間	平成2年度 築地塀の復元工事 平成5年度 ふるさと歴史広場オープン	
整備総事業費	「ふるさと歴史の広場」事業	
整備事業の概要 (ガイダンス施設などの設置状況)	<p>創建当時の伽藍の南半分が整備されている。立体的な復元としては伽藍西側の築地塀とその外側の溝の一部、及び金堂前の燈籠が復元されている。南大門や中門・回廊・塔などは発掘調査の結果を受け、瓦積基壇が復元されている。中でも塔跡は心礎を中心に17個の礎石が原位置に現存しており、それを取り込んで瓦積基壇が復元してある。</p>	
現況写真	 <p>整備された伽藍内部</p>	 <p>瓦積で復元された塔基壇</p>
	 <p>中門から見た伽藍北側</p>	 <p>復元された回廊</p>
	 <p>復元された土塀と溝</p>	 <p>整備された伽藍内部</p>
備考		

個別国分寺跡状況調査表

史跡名称	讃岐国分寺跡
所在地	香川県高松市国分寺町国分字上所
国史跡指定年月	昭和3年3月24日
指定地面積	76,593.62㎡
遺跡の概要	全国60余か所にある国分寺跡の中で、遠江・常陸とともに特に重要とされ、国の特別史跡に指定されている。伽藍建物は寺域の西寄りに造られている。中門・金堂・講堂が南北一直線上に並び、中門と金堂を結ぶ回廊の東側に塔をおく「大官大寺式」であったことが明らかとなっている。大官大寺は藤原京に最初に官立寺院として造営され、同様の伽藍配置が筑前・筑後・備前などの国分寺跡で確認されている。伽藍の主要部分（金堂・講堂・塔）の礎石が、現国分寺境内に良好に残されている。現国分寺の外側の寺域の発掘調査では全国でも最大規模の僧坊跡・鐘楼・掘立柱建物跡が確認されている。
整備期間	昭和52年～平成3年 用地取得事業、昭和58年～昭和61年 発掘調査、昭和62年～平成6年 整備事業
整備総事業費	事業費総額 1,746,517,000円（内訳：用地費650,910,000円、整備費1,095,607,000円）※文化庁「補助金事業」、文化庁「ふるさと歴史の広場事業」、自治省「地域文化財保全事業」
整備事業の概要 （ガイダンス施設などの設置状況）	讃岐国分寺跡の発掘調査及び史跡整備事業は奈良国立文化財研究所の全面的な応援を得て昭和58年から始まり翌59年には特別史跡讃岐国分寺跡調査整備委員会が発足し本格化した。現国分寺境内にある旧国分寺跡の金堂・講堂・塔は礎石が良く残り、往時の壮大な寺院建物を想像することができるが、現国分寺境内地のため調査はせず、主要伽藍外側の史跡内で調査が実施された。これらの調査で、講堂の北側で東西21間（約38m）、南北3間（約5m）の壮大な僧房跡が発見されたほか、鐘楼跡・掘立柱建物跡・寺域を区画する築地跡、その外側の大溝などの遺構が発見された。 史跡整備では遺構の保存状態が良い僧房跡に覆屋を造り、一部に内部の構造を立体的に再現し、僧侶の生活をイメージできるようにしている。鐘楼・掘立柱建物も基壇を造成し、礎石や柱を明示している。また東面と西面の築地を実物大に約30mにわたり復元し、その外側に大溝を復元して、寺域の広さを実感できるように整備している。さらに史跡公園内には、石材加工の盛んな地元技術により石材で忠実に再現した讃岐国分寺の10分の1の復元模型を設置している。ガイダンス施設（讃岐国分寺跡資料館）は史跡公園に近接して設置されており、精巧な金堂模型や出土品・イラストなどを使い国分寺の歴史を詳しく解説している。
現況写真	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;">  <p>特別史跡「讃岐国分寺跡」</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>現国分寺境内</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>1/10の国分寺石製模型</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>僧房内の展示風景</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>復元された築地塀</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>讃岐国分寺跡資料館</p> </div> </div>
備考	